＜感染症一覧表＞

病　名	主　な　症　状	利用のめやす
伝染性軟属腫 （水いぼ）	小豆大までの表面に光沢のある半球状で、へそのあるいぼ。 （潜伏期間：14～50日）	合併症がなければ 登所可。
伝染性膿痂疹 （とびひ）	薄い膜の水疱が、手、足、胸など全身のあらゆるところに できる。水疱はすぐ破れることが多い。爪を短く切っておく ことが必要。（潜伏期間：2～10日）	発疹が乾燥し、ガーゼで 覆えるようになってから。
流行性 嘔吐下痢症	吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など。（潜伏期間：1～3日）	激しい下痢、嘔吐が なくなってから。
アタマジラミ	フケとは違い、白っぽい卵が耳の後ろや生え際などの 髪の毛にしっかりとくっついていてなかなかとれない。 （大きさ0、5mm程） 頭にかゆみがでることもある。（潜伏期間：10～14日）	駆除薬（スミスリンL シャンプー等）を使って 駆除を開始してから。

病　名	感染しやすい期間（※）	利用のめやす
麻しん （はしか）	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過していること
風しん	発しん出現の7日前から7日後くらい	発しんが消失していること
水痘 （水ぼうそう）	発しん出現1～2日前から痂皮（かさぶた） 形成まで	すべての発しんが痂皮（かさぶた）化 していること
流行性 耳下腺炎 （おたふくかぜ）	発症3日前から耳下腺腫脹（ジカセン チョウ）後4日	耳下腺（ジカセン）、顎下腺（ガッカセン）、舌下腺（ゼッカセン）の腫脹（チョウ）が発現 してから5日経過し、かつ全身状態が 良好になっていること
結核	―	医師により感染の恐れがないと認められ ていること
咽頭結膜炎 （プール熱）	発熱、充血等の症状が出現した数日間	発熱、充血等の主な症状が消失した後 2日経過していること
流行性角 結膜炎	充血、目やに等の症状が出現した数日間	結膜炎の症状が消失していること
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後 3週間を経過するまで	特有の咳が消失していること 又は適正な抗菌性物質製剤による 5日間の治療が終了していること

腸管出血性 大腸菌感染症 （O157、O26、 O111等）	―	医師により感染の恐れがないと 認められていること （無症状病原体保有者の場合、トイレでの 排泄習慣が確立している5歳以上の 小児については出席停止の必要はなく、 また、5歳未満の子どもについては、 2回以上連続で便から菌が検出され なければ登園可能である）
急性出血性 結膜炎	―	医師により感染の恐れがないと 認められていること
浸管性髄膜炎 菌感染症 （髄膜炎菌性髄 膜炎）	―	医師により感染の恐れがないと 認められていること
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と 開始後1日間	抗菌薬服用後24～48時間が経過して いること
マイコプラズマ 肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後 数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水疱（スイホウ）、潰瘍（カイヨウ）が発症した 数日間	発熱や口腔内の水疱（スイホウ）・潰瘍（カイヨウ）の影響が なく、普段の食事がとれること
伝染病紅斑 （りんご病）	発しん出現前の1週間前	全身状態が良いこと
ウイルス性 胃腸炎 （ノロウイルス、ロ タウイルス、アデ ノウイルス等）	症状のある間と、症状消失後1週間（量は 減少していくが数週間ウイルスを排出して いるので注意が必要）	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の 食事がとれること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間（便の中に1か月程度 ウイルスを排出しているので注意が必要）	発熱や口腔内の水ほう・潰瘍（カイヨウ）の影響が なく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が 良いこと
帯状ほうしん	水ほうを形成している間	すべての発しんが痂皮（カヒ）（かさぶた）化して いること
突発性発しん	―	解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと

※感染しやすい期間を明確に提示できない感染症については（―）としている。